

請 願 文 書 表

受理年月日 及び番号	令和2年9月1日 第16号
件 名	国の責任による「20人学級」を展望した少人数 学級の前進を求める請願
請 願 者	文京区本駒込五丁目 15 番 12 号 新日本婦人の会文京支部 代表 榎 戸 忠 子
紹 介 議 員	萬 立 幹 夫
請願の要旨	次 頁 の と お り
付託委員会	文 教 委 員 会

請願理由

新型コロナウイルス感染拡大による臨時休業中や学校再開への移行段階で「3密」を避けるためクラスの2分の1程度で授業ができる分散登校や時差登校が行われました。20人程度で授業を受けた子どもたちからは「いつもより勉強が良くわかった」「手を挙げやすかった」などの声が聞こえ、教職員から「ゆとりを持って子どもたち一人ひとりと丁寧にかかわることができた」、保護者から「感染から子どもを守るには20人くらいがいい」など肯定的な声が上がりました。20人で授業を受けられるようにすることが感染拡大を防ぐとともに、豊かな学びを実現することにつながることで実感されました。

学校を再開するに当たり、感染拡大防止対策として教室の「密」を避けるための少人数学級・授業、学校規模の縮小などが必要です。そのためには教職員を増やすことが不可欠です。現行の40人学級では子どもたちのいのちと健康を守ることはできません。教室に「社会的距離」を確保するには20人程度で授業できるようにすることが必要です。いま「20人学級」を展望した少人数学級の前進が求められています。

さらに、教職員も40人学級で感染防止対策をしながら、授業時間の確保に追われている学校現場の状況があります「子どもも教職員もくたくたになっている」「消毒作業など過重な労働」「感染拡大を招いてはならないという精神的な負担」など悲痛な声が上がっています。

さまざま課題を抱えた子どもたちが増える中、一人ひとりに行き届いた教育を保障するため、全国の多くの自治体が独自に少人数学級を実施していますが、国の責任による少人数学級は小2で止まったまま8年連続で見送られています。

コロナ禍の中で「20人学級」を展望した少人数学級の前進は圧倒的多数の父母・保護者と教職員、地域住民の強い願いです。それに応じて自治体独自の少人数学級は今年度も着実に前進しています。しかし、国の責任による施策でないため、自治体間格差が広がっていることも厳しい現実です。教育の機会均等を保障するためには、地方に負担を押し付けることなく、国が責任を持って少人数学級の前進とそのため教職員定数改善を行うことがきわめて重要です。

請願事項

- 1 子どもたちのいのちと健康を守り、成長と発達を保障するため、緊急に20人程度で授業ができるようにすること。そのために教職員増と教室確保を国の責任で行うこと。
- 2 「20人学級」を展望し、少人数学級を実現すること。そのために国は、義務標準法を改正し教職員定数改善計画を立てること。